

町立 指江図書館

TEL0996-88-6500



「僕が本当に好きな和食」 著 笠原将弘

経験豊富な料理人ならではのアイデアから生まれた、家庭で作りやすくて美味しいメニューを紹介し...

町立 鷹巣図書館

TEL0996-86-1111



「今日も一日、楽しかった」 あべけん太 著

ダウン症を抱えながら、平日は会社員、週末はテレビ番組でタレント活動もする著者の初エッセー...

町立図書館おすすめ

図書館においてある本の中からおすすめのものを選びました。バラエティに富んだ本を紹介します。

長島文芸

Nagashima Bungai nagashimabungei

明神俳句会

- 夕しぐれ飛び石のいる深めたり 淵脇 護
氏神へ野石七段笹子鳴く 二階堂妙子
血縁のほそぼそづく除夜の鐘 山寄加代子
数へ日や残業続く加工場 関 佳代美
除夜の鐘余白の多き日記帳 山田 哲夫
煤逃げや手応のなき糸垂らす 筑前 初市
初鶴を借景としてわが狭庭 白男川孝仁
落ち葉焚く雨のにほひの近づけば 迫口 君代
花八ツ手我ままゆるす母逝けり 脇田 武志
冬風は波の秀くだけ光りをり 坂口 静子
使われぬ手押し車や水仙花 大堂 正弘
数え日や一日足りぬ予定表 大堂 光幸
父母にあいたき日なり笛鳴ける 大堂 早苗
除夜の鐘ぼんとう追放手を合す 二階堂恵子

創世短歌会

- 朝に夕に呼びいし猫の老い死にて人の死よりも今 竹之内重信
宵は悲し 竹之内重信
長距離の電話のかかり来る頃と子に言いたきをメモ 宮元 司
店先に今し卸されている見れば長島産の馬鈴薯箱ぞ 野村 益信
我が代にてあるいは絶えん家系にて背負うひとり 村上 義彦
豊作のよるこび分つ夫の亡く焼く粗穀の終日匂う 大塚 洋子
違いなく死は来る命生かさるる限りを生きな畑に 山下 学
向う 石原百合子
干されいて乾きて揺る洗濯物子あり夫あり幸せの景

長島短歌会

- 長生きの道のり顧みるこの頃に申し訳なき事のみ 岩下 房代
多かりき 岩下 房代
長島路しあはせ色のコバナセンナ石路の黄花に心 樗平 頼子
なごめり 樗平 頼子
底ごもり保冷車行けば枯椎葉バレイーナのごと山 米尾 和子
路に回る 米尾 和子
石段に散りし木の葉は紅葉にて掃くには惜しく両 坂之下典子
手に拾ふ 坂之下典子
久びさに亡母の生家を訪ひぬ天草灘より荒ぶ風受け 中山タマエ
寒き夜に嫁がしつらふ鍋囲む八十路となりし齡思 濱田美代子
ひつ 濱田美代子
亡き姉を支ゆる手のみ写りをりたった一枚これが 浜畑 松枝
わが亡母 浜畑 松枝
潮風と夕陽を返す窓硝子日の入りてなほしばし耀ふ 松元 睦子
暮れゆるける時化の港に乱れ飛ぶ鴉を独り窓越しに 岩下 ち江
見る 岩下 ち江

一般作品

- 「短歌」
七草に生誕弥生十一日天昇の母長も哀悼 西村 清子
いつの間に七十二の年おとこ我の見る夢まだ足らぬ夢 小林 貢
鳶滑空飛行機雲を遠く突切りて上昇気流を見つけたり 宗方 清明
親の恩いかに深きを知りつつも老せまりきてありがたきを思う 中仮屋辰子
古里と書けばのどかさあふるるが故郷とかきて想い溢るる 母木 良平
年取れば寒さなるかな困るかな何枚着ても寒いなるかな 町田 末則